④ 暮らしの道づくりプロジェクト

～主要道路の整備と安全な交通環境づくり～

＜プロジェクトのねらい＞

通過交通対策や交通安全の確保などを考慮しながら、生活道路整備の優先順位を地元で検討し、広島市に要望するとともに、広島市（道路整備）に協力し、その実現を促進します。

＜プロジェクトに関わる主な取組メニュー＞

●（主として）地元が取り組むメニュー

〇地元としての道路整備・交通安全対策の提案（地元としての優先順位の検討、要望）→下段を参照

●地元と行政等（協働）が取り組むメニュー

◇主要生活道路の整備（拡幅・改良・新設）

◇ループバスなど生活交通の強化

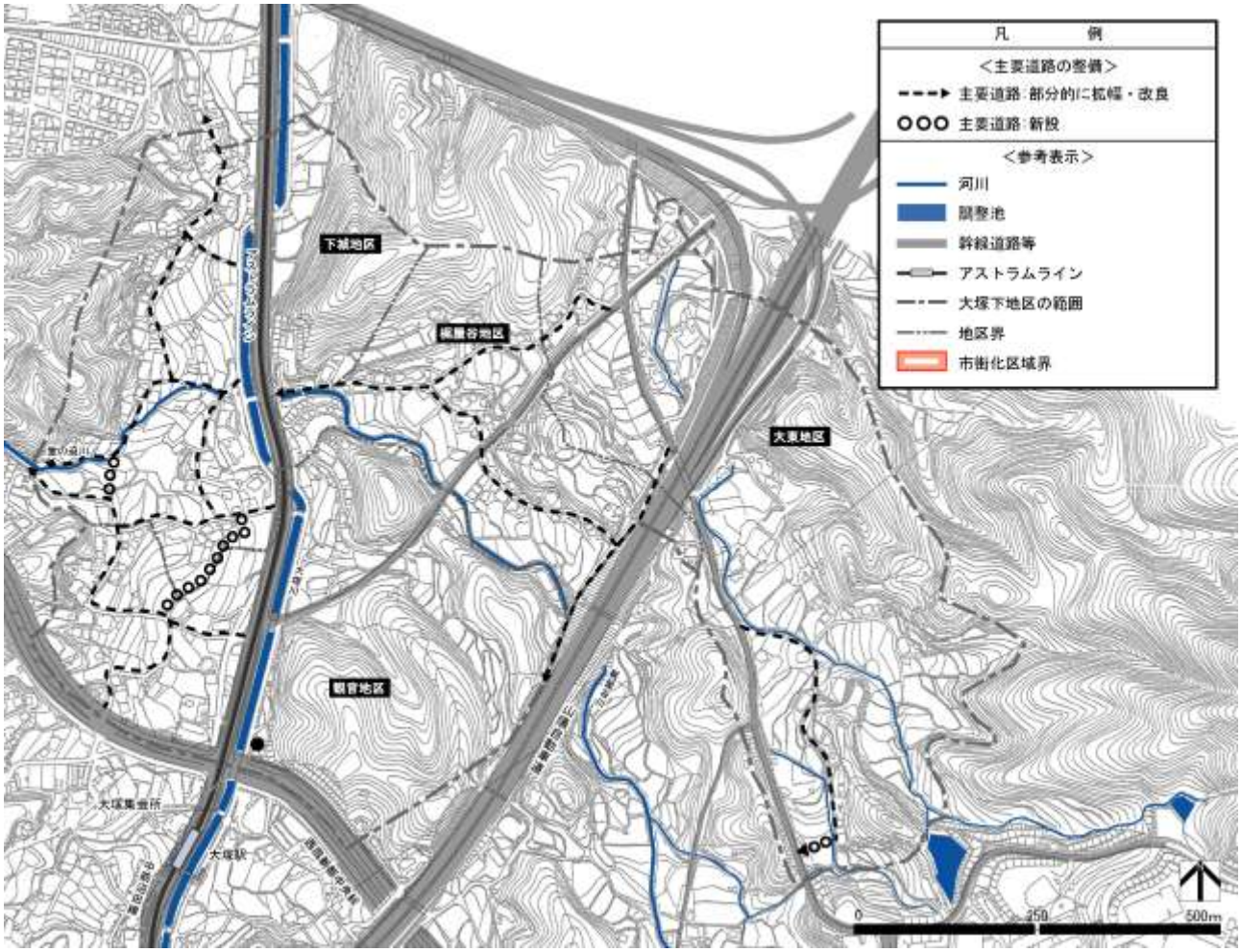
◇駐輪場の整備

●（主として）行政等が取り組むメニュー

□交通安全施設等の整備→次頁を参照

□交通規制（交通安全対策）の実施

＜大塚下における主要道路のルートと整備の案＞



＜車の速度抑制対策＞

車のスピードを抑えるために生活道路に施される対策としては、下記のようなものがあります。

ハンプ　**道路を凸型に舗装し、事前にこれを見たドライバーがスピードを落とすことをねらったものです。**

図:ハンプ[出典:国土交通省資料]

狭さく　**車道部分を狭めたり、視覚的に狭く見せかけることにより車のスピードを抑制しようとするものです。**

図:狭さく[出典:国土交通省資料]

クランク　**車の通行部分をジグザグにしたり蛇行させたりすることにより、車のスピードを抑制しようとするものです。**

図:クランク[出典:国土交通省資料]

現在、これらの対策を組み合わせることにより、車のスピードを抑えて歩行者の安全を確保する「コミュニティ道路」や「歩車共存道路」などの整備が進められています。

このほかにも、歩行者・自転車優先の道路構造を面的に整備することで安全性を確保する「あんしん歩行エリア」が全国 592 箇所で進められ、また、市町村や地域住民の協働による対策として、身近な生活道路を、歩行者や自転車などが優先して安全・快適に利用できる道にする「くらしのみちゾーン」の取組なども行われています。

出典：国土交通省道路局「道の相談室」
https://www.mlit.go.jp/road/soudan/soudan_06_01.html

車道の舗装の色を変え、速度抑制や注意喚起を促しています。（西風新都中央線）
車に振動を与える材料などもあります。

⑤ 支え合いの安全・安心・快適プロジェクト
～防災とミニネットワークづくり～

＜プロジェクトのねらい＞

住民相互、そして住民と行政と大学などがつながり合い、支え合うことによって、安全・安心で快適な地域を築いていきます。

＜プロジェクトに関わる主な取組メニュー＞

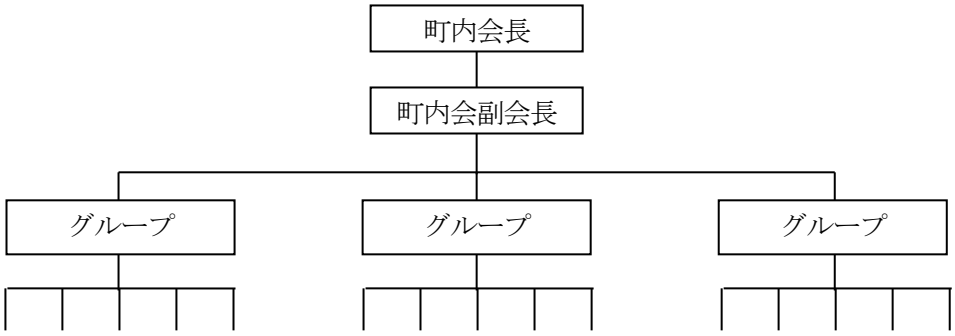
●（主として）地元が取り組むメニュー
- ○自主防災組織の充実
- ○生きがいづくり活動の実施
- ○子ども・高齢者の見守り

●地元と行政等（協働）が取り組むメニュー
- ◇ミニネットワークづくり→下段を参照
- ◇広島市立大学・広島修道大学と地域の連携→次頁を参照
- ◇防犯灯の設置・維持管理

●（主として）行政が取り組むメニュー
- □防災施設、避難場所等の整備

＜ミニネットワークづくりの例＞

大雨・地震災害時等で、隣近所のグループ（５～６世帯）がお互いに安否を確認して助け合いながら避難場所へ移動する体制づくり。



（１グループ：概ね5～6世帯）

この組織を確立すれば、高齢者（６５歳以上）要援護者等の世帯も含めグループの中で助け合うことができ、日常生活においてもお互い隣近所でコミュニケーションを図る等明るい社会を作ることができる。そして、平素からお互いが見守り変わったことがあれば町内会長（民生委員）へ連絡する体制をつくる。（この体制が確立すれば、援助見守り台帳の必要がなくなる。）

（参考）要援護者とは
1．一人暮らしの高齢者で病弱又は要介護状態
2．高齢者夫婦でともに病弱か一方が要介護者
3．障害者世帯で夫婦とも病弱
4．寝たきり認知症の高齢者を介護している
5．障害者で援助を必要とするもの
6．母子・父子家庭及び留守家庭児童のいる世帯で、援助を必要と摺るもの
7．高齢者で長時間一人でいることが多い世帯
8．その他援助が必要とされるもの

（出典：大塚・伴南学区社会福祉協議会　福祉のまちづくりプラン）

＜大学と地域が連携した取組＞

～かぐや姫プロジェクト（広島市立大学と地域との連携）～

～まちづくりプレゼンコンテスト（広島修道大学の学生によるアイデア提案～

2008 年のアイデア

Ｐｌａｎ１：ツインタワーのイルミネーションを点灯せよ！

Ｐｌａｎ２：地域の竹食材を使った“竹もち祭”

Ｐｌａｎ３：西風新都　道の駅

Ｐｌａｎ４：こども竹馬・農業塾

Ｐｌａｎ５：“星降るまち”西風新都

広島市立大学と隣接する大塚下

⑥ 歴史文化の再発見・魅力づくりプロジェクト
～大塚（下）の歴史文化・地域資源の掘り起こしと活用～

＜プロジェクトのねらい＞

大塚（下）の歴史文化を再発見しながら、その継承や復活などに取り組むとともに、歴史文化を生かしたまちづくりに取り組み、地域の魅力や活力のアップにもつなげていきます。

＜プロジェクトに関わる主な取組メニュー＞

●（主として）地元が取り組むメニュー
- ○祭りなど伝統行事の復活・活性化、世代間交流・人育て
- ○木遣（きやり）の輪の拡大→下段（木遣）を参照
- ○大塚の歴史文化の聞き取り・記録・継承
- ○“大塚村十二景”の活用
- ○新たな“大塚十二景”や名所づくり

●地元と行政等（協働）が取り組むメニュー
- ◇大塚地域誌の作成（公民館活動などでの作成）→下段（石内のむかし話）を参照
- ◇案内表示板の設置（助成・支援制度の活用による作成）→次頁を参照
- ◇探訪イベントの開催

＜木遣（きやり）の継承＞

意見交換会のはじまりは
木遣（きやり）から

＜石内のむかしの話（広島市佐伯区）＞

石内地区では、住民参加でつくった「石内まちづくり構想」で提案されている取組（地域誌づくりなど）が具体化されています。公民館活動を通じて住民が地域に残されている話を集め、スケッチや写真を取り入れ、「石内のむかしの話」として冊子に取りまとめられています。

＜説明板などを住民参加で整備（広島市南区）＞

広島市南区の元宇品におけるアース・ミュージアムの取組は、南区魅力発見委員会が作成した「マップ」が端緒となったといえます。

そのマップを利用して、地域を訪ねてもらうためには、道標も必要ということで「南区案内表示板等整備部会」を設立し、まずスタートとして元宇品を対象とすることになりました。

元宇品での案内表示板等に関わる取組は、平成 16 年度からスタートし、多様な参加によって進めてきました。そして、この活動が「アース・ミュージアム」につながりました。

南区魅力発見委員会

「南区案内表示板等整備部会」の設立～まず、元宇品を対象として～

一歩一歩・市民参加による魅力づくり
（平成 16 年度～）

○間伐材などを使おう！
（森林公園にあった倒木の利用）
○市民の手で設置、維持管理や将来の更新も！

市民
（案内表示板等整備部会）

宇品小・宇品東小・宇品中学校
（児童・生徒・先生）

南区

県立広島工業高等学校
（生徒・先生）

まずは、元宇品から魅力づくりを

ワークショップの開催

現地調査

森林公園での作業

県工での作業

平成 17 年度
誘導標識

児童・生徒による設置

スケッチは小学生によるもの

平成 18 年度
説明板

植物の説明板

海の生き物の説明板

平成 19 年度
説明板

柱型の説明板
（地層の説明）

「アース・ミュージアム　元宇品」への展開
自然とふれあい、地球(アース)を"想う"共生の場づくり